

全業種総合

回答企業数290企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断D I 値 やや悪化で推移～

総合的業況判断D I 値は、前期比4.1ポイント低下の▲6.2とやや悪化となった。

業種別での業況判断D I 値は、飲食業が21.1ポイント上昇の57.9、小売業は1.1ポイント上昇の▲2.2、建設業は5.2ポイント低下の▲5.2、サービス業では19.0ポイント低下の▲7.1、卸売業が10.4ポイント上昇の▲17.2、製造業は18.7ポイント低下の▲28.1、不動産業も22.2ポイント低下の▲33.3、運輸業は10.0ポイント低下の▲40.0となった。3業種が改善し、5業種は総じて悪化となった。飲食業がD I 値プラスで推移した。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」151先、「売上の低迷・減少」88先、「人員不足」87先、「経費の増加」66先、「利幅の縮小」57先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は2先増加、「売上の低迷・減少」は2先減少、「人員不足」が5先減少、「経費の増加」は11先減少、「利幅の縮小」は8先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が31先、前期比7先減少、設備投資実施予定割合は10.7%と前期比2.4%減少した。業種別では、運輸業（土地・建物・機械）20.0%、サービス業（土地・建物・機械等）16.7%、製造業（土地・建物・機械）15.6%、不動産業（建物）11.1%、飲食業（建物・機械）10.5%、卸売業（土地・建物・機械）10.3%、建設業（建物・機械・その他）8.6%、小売業（建物・機械・その他）6.6%であった。

資金繰りD I 値は、前回調査比1.4ポイント減少の▲11.7とやや悪化、今期借入した企業は21.7%と前回調査時（17.9%）より3.8%増加となった。

来期の見通し

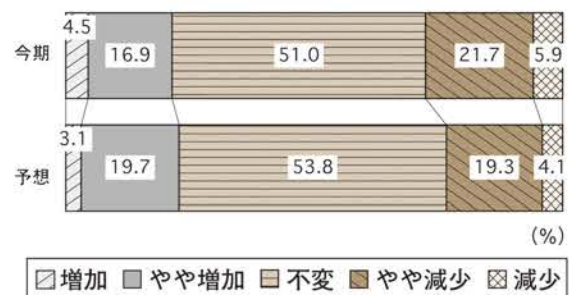
～総合的業況判断D I 値 やや改善の見通し～

各業種の見通し業況判断D I 値は、今回調査比5.5ポイント上昇の▲0.7とやや改善の予想となった。

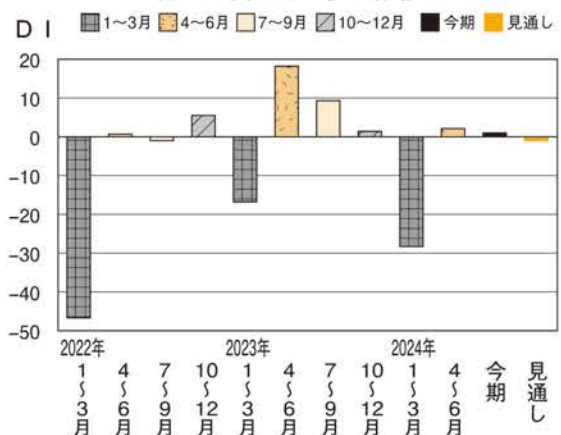
業種別では、運輸業が70.0ポイント上昇の30.0、卸売業は27.5ポイント上昇の10.3、建設業も12.1ポイント上昇の6.9、飲食業は52.6ポイント低下の5.3、小売業は横ばいの▲2.2、サービス業でも横ばいの▲7.1、製造業は18.7ポイント上昇の▲9.4、不動産業では22.3ポイント低下の▲55.6となり来期の見通しは4業種が改善し、2業種が悪化、2業種が横ばいとなった。

今期資金手当てした先が21.7%、今後資金手当て等借入を予定している先は17.6%となっている。

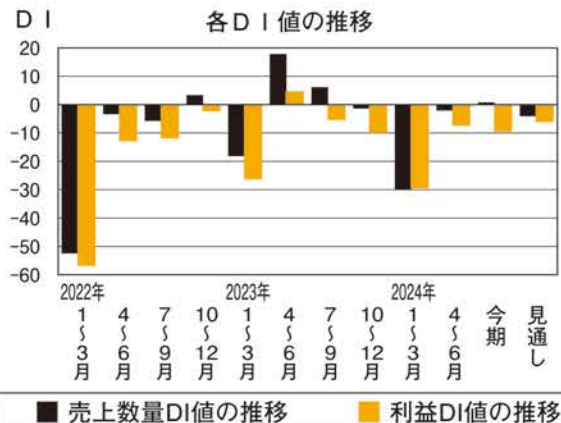
業況判断（全業種）



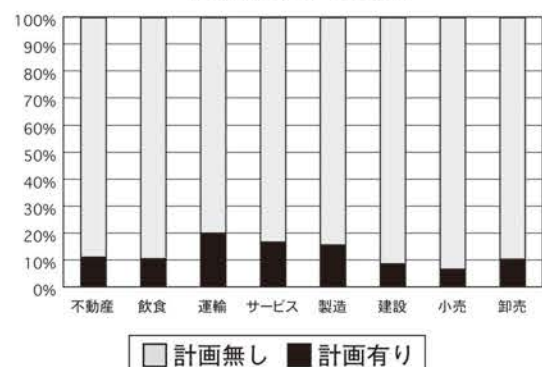
売上・受注D I 値の推移



各D I 値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比10.4ポイント上昇の▲17.2と改善し、前回調査予想値(▲44.8)は大きく上回る結果となった。項目別では、売上・受注では3.4ポイント低下の▲20.7、売上数量は20.7ポイント上昇の▲27.6、利益でも3.5ポイント上昇の▲31.0となった。

令和5年産米については、外食産業需要増や生産量の減少を受け米価が過去最高となり、在庫を持った業者は7～8月の販売は堅調であった。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

製麺業では猛暑の影響から冷やし麺の売上が好調で売上高・利益とも増加した。

建設資材卸売業は新築工事減少傾向にあるが、リフォーム等を主体に売上を確保する業者もあり、業者間の格差が見られる。

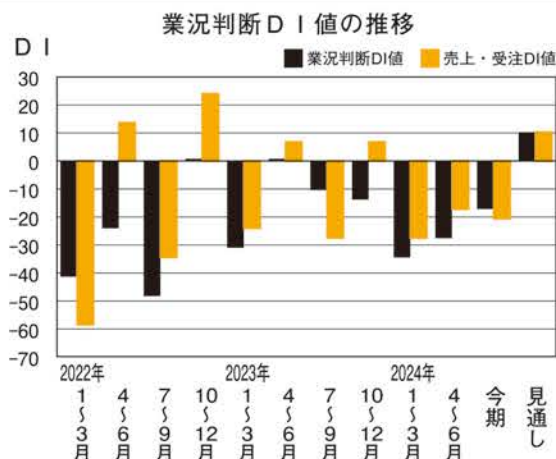
令和5年産りんごについては、品薄から産地価格高騰、市場価格も高値で推移しているが売上高や利益については総じて減少傾向であった。

来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比27.5ポイント上昇の10.3と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で31.1ポイント上昇の10.4、売上数量は41.4ポイント上昇の13.8、利益では27.5ポイント上昇の▲3.5と改善の見込みとなった。

りんご・米などの農産物取扱いが本格化するため、業況改善を見込んでいる。



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断D I 値 やや改善で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比1.1ポイント上昇の▲2.2、前回調査予想値(▲9.9)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で6.6ポイント上昇の0.0、売上数量が11.0ポイント上昇の1.1、利益でも2.2ポイント上昇の▲9.9となり、すべての項目でやや改善となった。

ねぶた祭りや各イベントの影響もあり、食料品・アルコールを主体に好調に推移した。但し、商店街の集客力低下を危惧する声も多数聞かれた。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

食料品・酒類小売業は、ねぶた祭りをはじめ各種イベントの影響を受け売上高は好調に推移。

生花小売業ではお盆期間は好調であったが、近年の冠婚葬祭縮小化などにより売上減少傾向にある。

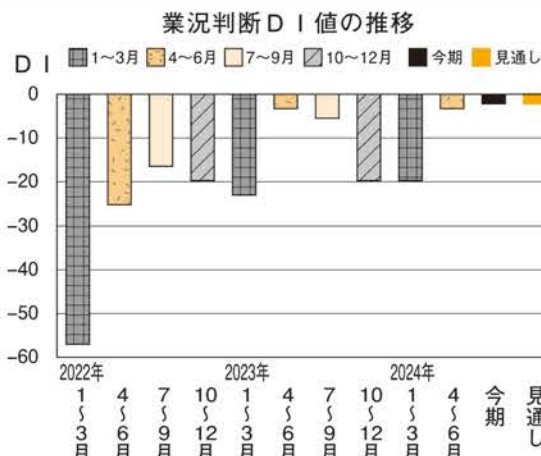
中古車販売は、好調に推移するも仕入価格上昇を受け利益減少傾向であった。

来期の見通し

～業況判断D I 値 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比0.0ポイントの▲2.2と、横ばいの見通しである。項目別では、売上・受注で3.3ポイント低下の▲3.3、売上数量は11.0ポイント低下の▲9.9、利益では2.2ポイント上昇の▲7.7となった。

来期は、燃料販売やスタッドレス等の季節商品に期待あるものの、仕入価格上昇により利益確保が課題となっている。



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 やや悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比5.2ポイント低下の▲5.2とやや悪化し、前回調査予想値(8.6)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注が1.7ポイント上昇の10.3、売上数量では5.1ポイント低下の3.5、利益では3.5ポイント上昇の▲8.6となった。2項目でやや改善となったが、利益がD I 値を引下げた結果となった。

資材価格高騰の影響から工事単価が過去最高になり、住宅新築については契約に至らないケースが多くなっている。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

住宅新築については減少傾向であるが、リフォームは増加傾向。資材高騰により利益確保が課題となっている。

塗装工事業に於いては天候にも恵まれ業況安定推移した。

土木工事業は、橋梁補修工事や砂防整備工事などの公共工事が継続的にあり、入札による受注確保に努めている。

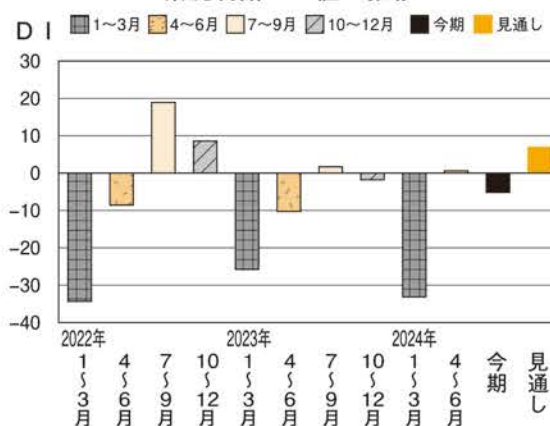
来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比12.1ポイント上昇の6.9と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で8.6ポイント低下の1.7、売上数量も6.9ポイント低下の▲3.4、利益では6.9ポイント上昇の▲1.7となった。

受注工事については業者間の格差あるも、確保されている様子。共通の問題点として資材高騰、人員不足があげられている。

業況判断D I 値の推移



製造業

回答企業32企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比18.7ポイント低下の▲28.1と悪化し、前回調査予想値(▲18.8)も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で15.7ポイント低下の▲6.3、売上数量も12.5ポイント低下の▲6.3、利益でも21.9ポイント低下の▲12.5と全ての項目で悪化となった。

食品製造業では、原材料価格高騰による販売価格転嫁が販売数量減少に結びつき厳しい業況となった。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

衣料縫製業では、夏季期間はスーツ需要が落ち込む時期であり総体的に売上減少。原材料高騰もあり業況は低調に推移。

山菜の食品加工業に於いては、熊被害により原材料の仕入れに苦戦し、売上減少の一因となった。

電気機器関連では猛暑の影響等受けエアコン設置工事などによる、電気ケーブル等の受注が増加し好調に推移した。

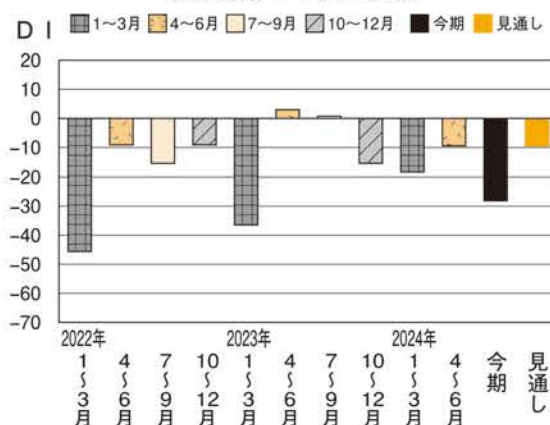
来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比18.7ポイント上昇の▲9.4と改善の見通しである。項目別では、売上・受注では横ばいの▲6.3、売上数量でも横ばいの▲6.3、利益では6.2ポイント上昇の▲6.3となった。

製造業では季節要因から食品関連を中心にやや改善を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比19.0ポイント低下の▲7.1と悪化となったが、前回調査予想値(▲9.5)は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で14.3ポイント低下の▲2.4、売上数量も14.3ポイント低下の0.0、利益でも19.0ポイント低下の▲9.5と項目別でも悪化となった。

宿泊業では、ねぶた祭等イベント増加により宿泊客増加。一方で、仕入価格や経費の増加により利益は減少傾向。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

各種リース業では重機の長期レンタルが増加したが、燃料費高騰から総体的に例年並みとなった。

旅行代理業、円安から代金価格上昇し海外旅行は全体の10%まで減少との事。旅行客は全体的に増加しているため、横ばいで推移したとの事。

来期の見通し

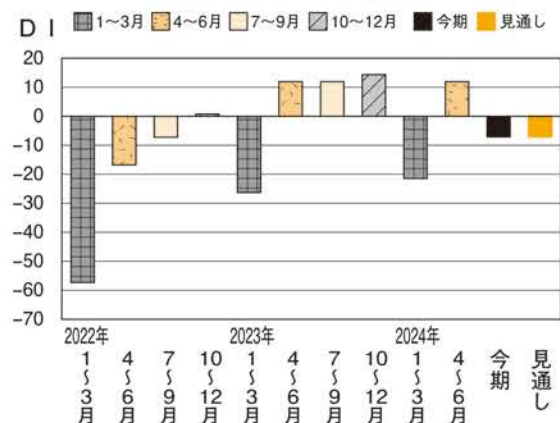
～業況判断D I 値 悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比0.0ポイントの▲7.1と横ばいの見通しである。項目別では、売上・受注では2.4ポイント低下の▲4.8、売上数量も14.3ポイント低下の▲7.1、利益は横ばいの▲9.5と2項目で悪化、1項目で横ばいの見通しとなった。

業種別では、季節要因により業況改善に期待感あるも、総体的には「仕入価格高騰」や「経費の増加」の影響を懸念し、悪化の見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



運輸業

回答企業10企業

概況

～業況判断D I 値 やや悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比10.0ポイント低下の▲40.0とやや悪化し、前回調査予想値(▲20.0)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で20.0ポイント低下の▲30.0、売上数量も20.0ポイント低下の▲30.0、利益でも10.0ポイント低下の▲30.0と各項目悪化となった。

主要貨物のりんごは減少期であり、野菜・果物の取扱いに例年通りに推移した。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

国内旅行は北陸地方への補助金や復興支援により、国内ツアーが北陸に流れた事から売上は低調に推移した。

昨年に比べ野菜等の収穫は例年並みであったことから売り上げ確保に繋がった。

総じて「燃料価格の高騰」が共通の課題となっている。

来期の見通し

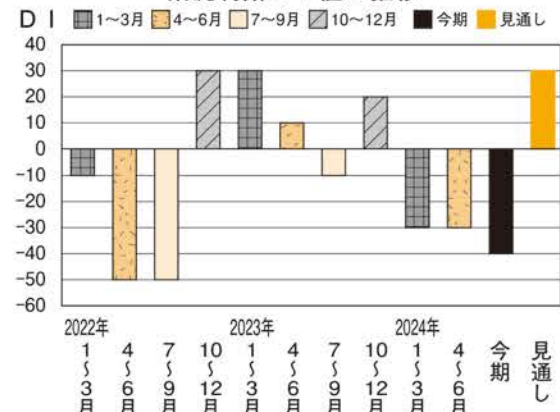
～業況判断D I 値 大幅改善の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比70.0ポイント上昇の30.0と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注が70.0ポイント上昇の40.0、売上数量も60.0ポイント上昇の30.0、利益では70.0ポイント上昇の40.0と大幅改善となった。

来期は主力のりんごの輸送が増加する事から、各事業者とも業況改善を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



飲食業

回答企業19企業

概況

～業況判断D I 値 改善で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比21.1ポイント上昇の57.9と改善、前回調査予想値(15.8)も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で26.3ポイント上昇の52.6、売上数量も26.3ポイント上昇の57.9、利益でも36.8ポイント上昇の42.1と各項目で改善した。

総体的にねぶた祭り、お盆等の影響大きく売上は増加した。仕入価格、給水光熱費の高騰は継続しており経費節減が課題となっている。

来期の見通し

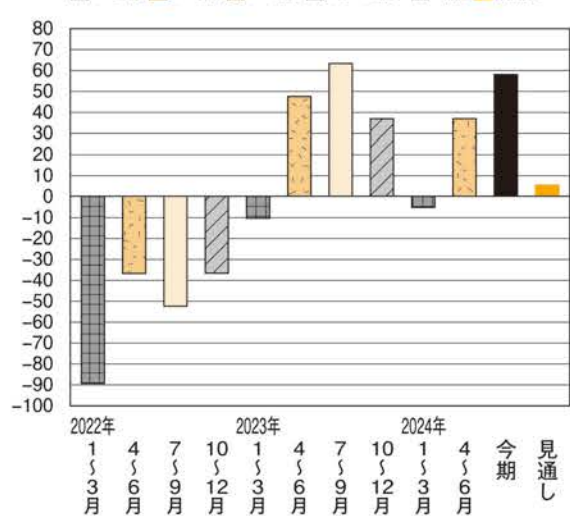
～総合的業況判断は大幅悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比52.6ポイント低下の5.3と大幅悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で57.9ポイント低下の▲5.3、売上数量も63.2ポイント低下の▲5.3、利益でも63.2ポイント低下の▲21.1と全項目で大幅悪化の見通しとなった。

来期はイベント減少による集客率低下や仕入価格、経費の増加が止まらない事、近頃の米価高騰を受け、厳しい見通しとなった。

業況判断D I 値の推移



不動産業

回答企業9企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～



今期の業況判断D I 値は、前回調査比22.2ポイント低下の▲33.3と悪化、前回調査予想値(0.0)を大きく下回る結果となった。

項目別では、売上・受注で11.1ポイント低下の▲11.1、売上数量は11.1ポイント上昇の0.0、利益では22.2ポイント低下の▲11.1と悪化となった。

不動産価格の高騰による買い控えや他社との競合により業況低迷している。賃貸物件は例年並みに推移しており大きな変化はなかった様子。

来期の見通し

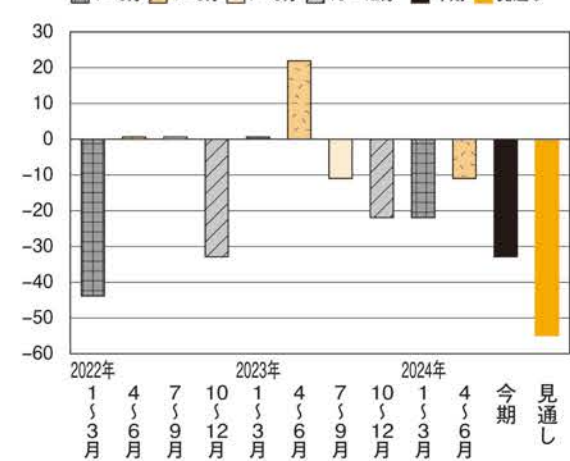
～総合的業況は悪化の見通し～



来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比22.3ポイント低下の▲55.6と悪化の見通しである。項目別では売上・受注で22.2ポイント低下の▲33.3、売上数量が22.2ポイント低下の▲22.2、利益でも11.1ポイント低下の▲22.2の見通しとなった。

来期は季節要因から閑散期となるため、業況は悪化を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移



調査要領

- 調査時期 2024年9月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」 「やや増加(やや上昇)」 したとする回答と、「減少(下降)」 「やや減少(やや下降)」 したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。